



国際医療協力室ロゴマーク

● 活動目的

1. 『外国人にやさしい病院』を目指して診療体制を構築する。
2. 海外医療協力を推進する。

● 活動の歴史

- 1) 当院では 2005 年 4 月に国際医療協力室が発足した。(臼井外科医長)
その間、医療通訳をはじめとする外国人診療体制の整備を行なってきた。
- 2) 2006 年から 6 年間は厚生労働省国際医療研究を行なった(3 研究)。
 1. (18 指 1) ネットワーク機関における外国人診療のあり方に関する研究
 2. (18 公 6) 胎児から乳幼児に子育てを軸とした継続ケアの構築
 3. (21 指 9) 海外渡航者及び帰国者のための効果的な診療体制整備に関する研究－(分担)
在日外国人・日本への外国人渡航者の診療体制の構築
- 3) それらをもとにして、2012 年外国人診療の 10 箇条をまとめた。外国人診療に対する基本的な姿勢を述べている。2013 年改訂。
- 4) 外国人医師の研修、海外からの患者の受け入れ、治療、海外での医療支援活動など、海外医療協力を推進している。

● 活動状況

1) 海外医療協力

NPO 中国四国小児外科医療支援機構(本部:岡山医療センター)による活動

2023 年度は約 2 か月おきにカンボジアに小児外科チームが渡航して小児固形腫瘍手術を施行した。また、2024 年 1 月には中断していたミャンマーでの医療支援を再開することができ、ヤンゴン小児病院で小児外科手術を施行した。

渡航時期・渡航先	手術内容
2023年5月 カンボジア	肝芽腫2例など、手術9件
2023年7月 カンボジア	肝芽腫1例、腎芽腫2例など、手術7件
2023年9月 カンボジア	肝芽腫1例、腎芽腫2例など、手術10件
2023年11月 カンボジア	胚細胞性腫瘍1例など、手術7件
2024年1月 ミャンマー	直腸肛門奇形3例、腎盂形成1例含め、手術6件
2024年1月 カンボジア	膀胱拡大1例、尿道下裂5例含め、手術8件
2024年2月 カンボジア	肝芽腫1例、胚細胞性腫瘍1例含め、手術12件



写真:ヤンゴンの小児病院での手術の様子

2) ジャパンハートとのパートナーシップ協定締結

2022 年 12 月 6 日、今後の国際医療活動協力、国内の医療活動協力に関して協力体制を強化するため協定を締結した。小児外科疾患に限らず、小児内科、周産期、ひいては成人疾患に至るまで、あらゆる分野での国際医療支援に取り組んでいく。

3) 当院の外国人診療システム充実のための活動

4) 外国人診療の手助け、助言

診療に必要な書類掲示物の英訳・助言など適宜行っている。

岡山医療センターの外国人診療

- 患者の家族・知人による通訳
上記がない時は地域連携室・国際医療協力室に連絡
- 多言語医学情報ツールの活用
16カ国対応診療補助表など
- 医療通訳の確保
英語は院内
その他の言語は院外から
岡山国際交流センター 中国語・ポルトガル語など

● 外国人診療の手助けに、16 か国語診療補助表というのが、以前より救急外来、地域連携室に用意されています。また、2016 年 10 月よりCoMedix(院内情報共有プラットフォーム)の国際医療協力室に掲載しています。

● 日本語のわからない外国人への対応図です。

